

私達は二十パーセント

山添村立山添中学校 三年

稲場 翔也

この間テレビを見ているともものすごく年をとったおじいさんがでてきてこんなことを言っていた。

「水は何よりもうまい。うまい水を飲むことが私の幸せだ。」

これを聞いてあなたはどう思うだろうか。毎日いつでもどこでもこの貴重な自然の恵み「水」を手に入ることが当り前だと思っではないだろうか。恐らく思っているだろう。私は三、四年前の夏に一ヶ月近く水が使えないということがあった。夏休みに入っていないということがあった。夏休みに入っていないことだった。ある朝あまりの暑さに水を飲むと、ゴボゴボツという音と共に大量に砂の混じった水がでてきた。その時は本当に驚いた。連日、猛暑による水不足の問題がニュースで取り上げられ少し恐いなと思った。しかし、

私の住む山添村は比較的涼しいので大丈夫だろうとも思っていた。そんな矢先のことだったのでしばらく信じる could ができなかつた。何が起きたのか分からないまま、とりあえず私は母に連絡をした。その日から日常生活がこんなに変わるとは夢にも思わなかつた。まず、毎日プラスチック製の樽のような入れ物に水をくみに祖父母の家に行かなければならなくなつた。これは大変な重労働で一往復だけですぐにクタクタになつた。また夏ということもあり、暑さで相乗してより疲れた。とりあえずこれで飲料水には困らなくなつた。しかし、大きな問題が残っていた。それは「入浴」だ。これだけは仕方なく祖父母の家に入りにはいかなければならなかつた。行つて、入るまでは構わないのだが帰るまでの道のりで、また汗をかくのがとても苦痛だ

った。

そんなつらい日々も夏とともに終わりに、やっと我が家にもふだんの生活が戻ってき、嬉しかった。

蛇口から汚れた水が出てきた直接の原因は井戸が枯れたことではなかったのだが、今後そういうことがまたあると困るということで水道を備えることになった。

最初、水道水特有のにおいや味に慣れず井戸水に戻してほしいと何度も思った。しかしこれで水で困ることはなくなつた。

この体験から私は、水を流しっぱなしにしないなど水を大切に作る習慣がついた。「ありがたい」とは「有難う」と書く。今回水が使えないという難が私の身に起き、水問題への意識や水の価値観が変わつた。こんなに有難いことはない。

水が飲めるとは何と幸せなんだろう。遠くの井戸まで水をくみに行くアフリカの子供達どれだけ大変なことをしているか、身にしみてよく分かつた。生きていくための最小限の量しか使用できなかったり、安全な水が得られない人々は世界の人口の八割だ。それなの

に残り二割の私達は限りある水を考えもせず毎日莫大な量を使用している。これをあなたはどう考える。本当に今の生活のままでもいいのか。二十パーセントの私達が考えなければならぬ。